

（寄稿）

NOMURA

貝塚病院の再生の軌跡

はじめに

診療報酬単価のマイナス 3.16%改訂の後、僅かずつですが、医療機関の倒産・民事再生件数が漸増しています。

そうしたケースのそれぞれに、地域医療の灯を消すまいと一生懸命に奮闘する経営者・従業員のドラマが秘められているものと思います。

今回ご紹介するケースは、破綻状態にあった病院に親族から呼び戻される形で理事長として就任した若きドクターが、待った無しの状況で再建を託され、一時は絶望的な状況に陥った病院を見事に再生させた物語です。

その再生のプロセスは、形こそ M&A という形をとっています。しかしながら、実態は再建に向け奮闘中の理事長を応援するという形式でスポンサーが入り、経営陣の厚みを増すことで理事長の指揮の下、地域との連携を強化しながら再建を果たすというものでした。

このようなケースが当事者の口から公にされることは数多くありません。しかし、再生の成功事例の一パターンとしても考察できることから、今回は当事者である庄司先生ご自身に執筆をお願いしました。

2011 年 7 月 28 日

Healthcare note

(No. 11-09)

寄稿者名：

医療法人貝塚病院
理事長 庄司 哲也

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
河添 麻美

野村證券株式会社
法人企画部